

長さを分かりやすく伝えるために …

2年「長さをはかろう」の授業

ちょっと遅くなりましたが、5月末におこなった2年生の研究授業「長さをはかろう」の様子をお伝えします。

「長さ」の学習というと、ものさしを使って何cmかを測る学習を思い浮かべる方が多いと思います。けれども、算数はテクニックだけを身につける学習ではありません。「長さ」についての感覚を徐々に高めながら、進めていくのがポイントです。

1年生の時には、まず「長さくらべ」から入ります。鉛筆の長さを比べるには、鉛筆を並べてみればわかります。(図1)



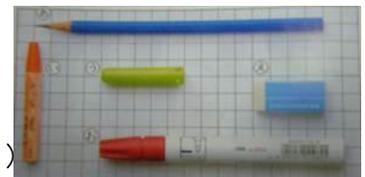
(図1)

けれども、CDケースの縦と横の長さを比べると、並べてみることはできません。(図2)そこで、紙テープに長さを写し取って比べる活動を行いました。直接比べられない時は、何かに置き換えて間接的に比べればよいのだということをお子たちは学びます。



(図2)

さらに長さを数字に置き換える学習をしました。(図3)の写真のようにマス目の上にものを置くことで、「マス目□個分の長さ」というように長さを数字で表現することができるようになります。ここまでは1年生での長さの学習です。



(図3)

大人から見ると少々まどろっこしいように感じますが、様々な活動を行いながら子供たちの「長さに対する感覚」を育て、工夫を考えさせながら進めることで、見方・考え方を育てていくのです。

ものさしという「道具」を持たせ、センチメートルという「共通単位」を与えて測定するのは、長さの感覚を育ててからなのです。急ぎすぎはいけません。

前置きが長くなりました。2年生の授業の様子です。1年生で学んだことを思い出し、生かしながら進めていきました。

教材に用いたのは、1・2年生が各クラスで作った「こいのぼり」です。

どんなこいのぼりを作ったのかお家の人に話した子もいました。聞いてみると「手ではひらけないけど、長かったよ」「1メートルよりは小さいかわからないけど、でかいよ」と伝えたそうです。子供によって伝え方はさまざま。これではどれくらい大きいのがうまく伝わりません。

そこで、この日の課題は、『こいのぼりの長さをはかろう(そして、おうちの人に話そう)』としました。

まず、「どうやって測ったらいいと思いますか」と聞き、班で相談しました。

すると、「下敷き」「計算ドリル」「机」「クレヨン」「のり」・・・など、自分の身近にある物を並べて何個分あるかを調べることになりました。

いざ測定へ！



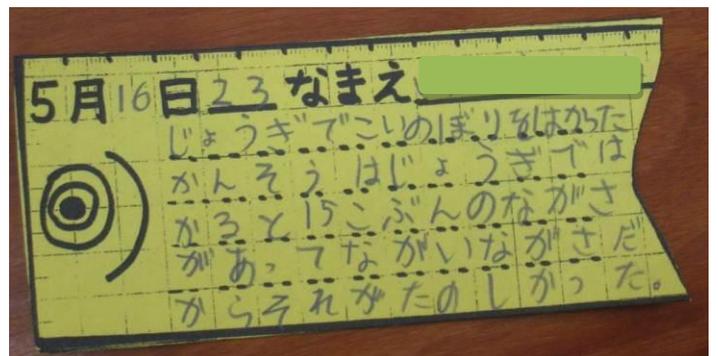
→写真では見づらいですが、この班は、定規を並べて測定しています。けれども何センチメートルかを測っているわけではありません。「定規□本分か」を数えています。



→こちらの班は、なんと教室の机を運び出して使っています。こいのぼりのような長いものを測るなら、机のように大きなものを単位にして「つくえ□個分」と数えた方が速いと考えたようです。無事測定が終わると、うれしそうに結果を教えてくださいました。



←この班は計算ドリルを使いました。ドリルを広げて長くして測っているところがひと工夫です。



このあと、それぞれの班が測った結果を発表しました。

子供たちは長い長いこいのぼりの長さを、自分たちの力で測ることができて満足していました。

しかし、ちがうものを使って測っているので「じょうぎ 15 ぶん」「つくえ 4 台とちょっと」というように、班によって数値がバラバラです。

もっといい比べ方、測り方はないかなということで、次の時間からの学習を進めていきました。

子供たちの試行錯誤する姿がほほえましい授業でした。